

1973年（昭和48年）、日本で初めて北里大学大学院修士課程に「臨床薬学特論」が開設され、日本の薬学教育に、いわゆる臨床薬学が導入されるきっかけとなった。その後も先駆的で、かつ確かな実績を積み重ねている。同大で教鞭をとる小宮山貴子教授（臨床薬学研究センター臨床薬学部門・Pharm.D.）は、その歴史そのものといっても過

言ではない。模擬患者（SP）を使った事前実習の導入をはじめとして、臨床を意識した薬剤師教育では常に話題を提供し続けている。2001年には第2の母校である米国ケンタッキー大学から、年に1人しか授与されない「活躍する最優秀卒業生」として、同大歴史始まって以来初の外国人として表彰されるなど、評価は国際級だ。



小宮山教授企画の卒業イベント（05年はヘリコプターで東京上空を周遊）

ズームアップ

北里大学教授、臨床薬学研究センター 小宮山 貴子氏
臨床薬学部門・Pharm.D.

小宮山氏は北里大学を75年（昭和50年）に卒業し、基礎生物研究所に実験助手として就職した。だが、「化学、農学など全てのフィールドの人間が集まっており、基礎研究分野では薬学・薬剤師でなければならない理由はないと悟った」という。そこで一転、薬剤師らしい活躍を目指して、より高度な知識・技能を身に付けようと、あたりを見渡したところ「実は母校に臨床薬学の大学院があったことを初めて知った」（笑い）という。

76年、大学院での研修先は相模原市の北里大学病院の病棟。毎朝カンファレンスルームに通い、カルテを読み、冷や冷やししながら医師のカンファレンスに参加したという。「当時は“何しに来たの？”“処方せんチェック

しに来たの？”と顔ぶれが変わる度にレジデントから聞かれた」という。当時の薬剤部長は、現在八王子薬剤センター代表を務める朝長文彌氏。その北里大病院でも、まだ“薬剤師イコール調剤する人”で、今のような病棟業務は存在せず、薬剤師が病棟にいて、カルテを読んでいるのは“誰の目にも奇異に映った”時代だった。

1年半の臨床研修のなかに“調剤”はなく、「1カ月も経つと患者カルテは読み終わり、やることがないので、1部屋ずつ病室を回り“薬に係わる相談はありませんか？”と御用聞き活動をはじめた」（笑い）そうだ。教授回診では「一番うしろから付いていきなかった」という思いとは裏腹に、結果的に、最前線で回診の様子を目の当たりにしてきた。カンファレンスを傍聴するなかで、薬に係わる問題を見出して調査・解析し、時には医師の求めに応じてその結果を発表した。討議の中からヒントを得て、入院患者さんの残薬回収なども行った。臨床現場で、何とか役に立とうと努力した結果だ。小宮山氏が重視する“医師や看護師と協働する臨床研修”のあり方を自ら開拓していったわけだ。

「今の学生はとても恵まれていると思う。研修する薬剤



2001年「活躍する最優秀卒業生」の表彰プレートを手に（小宮山貴子教授）

病棟活動のフロンティア 目指すは薬学の臨床応用

師業務が決まっていて、見本もあって、それをたくさん経験するか否か」とレールが敷かれた現状を指摘する。米国の留学先でも当時は「あなたは医療チーム内で何をしたいか？と聞かれる。教えられるメリットを最大限に享受することも結構だが、学生だからできることもある。自分の足跡を残す、そういうチャレンジがあっても良いのだと思う」と語る。

国内はもとより、アメリカにも先駆けてSP実習を導入するなど、北里大の実務実習には先端的な取り組みが目立つ。対医師スキルを叩き込まれてきたケンタッキー大留学経験も含め、そのチャレンジ精神によって形作られてきたのであろう。6年制になり、時代が追いついてきた印象さえ受ける。

自らと全く同じ経験を求めたいところであろうが、現実には学生数も多く、受け入れ環境は何ともしがたいところ。そういうなかでも、教室が病院内にあることを最大に利用して医師との臨床共同研究を推進し、大学院生や学部教育に反映させている。また、新たな計画がいくつか潜行しているようだ。「薬学を臨床で生かせる薬剤師の育成が主眼」と言い切る小宮山氏。いつまで経っても目が離せない。



教育研修で選ぶならファーマライズ!!

医薬分業の進展や、薬の多様化、医療の高度化など、薬剤師を取り巻く環境は急速に変化しています。今後は、さらに患者さんと密接に関わる調剤薬局が必要となり、薬剤師のスキル向上が求められるようになります。私たちファーマライズでは、入社前から十分な研修とフォローを行い、また入社後も段階に応じた教育体制を整え、スキルアップを応援します。私たちは薬剤師として学び続ける姿勢に応え、あなたの未来を応援します。

採用に関するお問い合わせは
お気軽にご連絡下さい。

ファーマライズ株式会社 〒164-0011 東京都中野区中央1丁目1番1号
<http://www.pharmarise.com> ☎0120-127-510

会社概要

事業内容 調剤専門薬局の経営
代表者名 大野 利美知
設立 昭和59年6月
資本金 4億5,520万円
売上高 132億円
従業員数 550名
事業所 調剤薬局90店舗

待遇・勤務

初任給 大学卒 月給23万円
修士了 月給24万円
昇給賞与 昇給年1回、賞与年2回
勤務時間 週40時間
休日休暇 完全週休2日制（公休日、日曜祝日）、年次有給、特別、夏季、年末年始、慶弔
福利厚生 共済会、従業員持株会、保養所、各種補助制度

